



## 復活の主日(日中)(ヨハネ 20:1-9)

沈黙の中に声を聞いた人に、復活の主は答えてくださる

あらためて主の御復活おめでとうございます。病人訪問で、「御復活と聖霊降臨は雨が降るんですよ」と話していた方がいました。説教を書いている時点では予報は雨でしたが、果たしてどうなっているのでしょうか。

先日聖香油のミサに参加した帰り、私は「復活の出来事」を身近に感じる体験をしました。大司教館のFで始まる名前の神父様から、「中田神父様、あんた隠し事のなかね？最近おたくの頭を見る度に、『生えてきたなあ』って思うとよ。まさか、『ニューモ』ね？」

これには参りました。「ニューモ」は使っていません。「死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかった」(ルカ 15・24) この聖書の言葉を体験させてくれたF神父様には、私が使い始めた「コスモス」で売られているシャンプーを送りたいと思います。

今年は沈黙の中にメッセージを読み取ろうとしています。朗読では「マグダラのマリア」だけが声を上げます。「主が墓から取り去られました。どこに置かれているのか、わたしたちには分かりません。」(20・2)

もちろん、主イエスは墓から取り去られたものではありません。墓においてになりませんが、状況を理解する方法は二つあるでしょう。

一つは、マグダラのマリアをもう一度墓に連れて行って、現場検証をすることです。彼女からあらためて話を聞き、彼女の証言から本当に起きていることを突き止める方法です。

もう一つは、マグダラのマリアの証言が表面的なものかも知れないので、弟子たちが独自に墓を調べて、証言の向こうにある出来事を突き止める方法です。実際弟子たちは、マグダラのマリアの証言にあまりとらわれず、その向こうにある真実を捉えようと墓に向かったのです。

それはつまり、言葉が伝えてくれたことにとらわれず、沈黙を保っている空の墓に、耳を傾けに行ったということです。沈黙を保っている墓に、弟子たちが真実を捉えるヒントがある。一つも漏らさないようにと神経を集中して、ついに真実を捉えたのです。「それから、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来て、見て、信じた。」(20・8)

沈黙の中で答えを探す経験は、誰もが通る道です。私は現役主任司祭を肺炎で失ったことがありました。私たちだけを残して、いったいどうすれば良いのですか？沈黙の中に答えを探さなければなりません。

こんな私たちを、イエスは導いてくださいます。「イエスは必ず死者の中から復活されることになっているという聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである。」(20・9) 今でしたら、イエスのみことばが入ってきます。沈黙の中で、神は必ず答えを示してくださると。

私たちが信頼して耳を澄ませば、答えを聞かせてくださる。復活した主は、今も人間的な思い込みの声を外に出した沈黙の場所で、空の墓で答えてくださり、希望と慰めを与えてくださるのです。

神のいつくしみの主日(ヨハネ 20:19-31)